

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科の 名称	専任教員数								非常勤教 員	専任教員 一人当た りの在籍 数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理 学奉仕ま たは作業 療法士数	助手			
医学科学部 理学療法学科	4人	4人	7人	1 人	16人	8人	14人	0人	62人	15.3 人	
計	4人	4人	7人	1 人	16人	8人	14人	0人	62人	－	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
		哲学A	15	金成祐人	専任
		哲学B	15	榊原健太郎	専任
		倫理学B	15	内藤可夫	専任
		心理学A	15	古賀賀恵	兼任

基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学B	15	古賀賀恵	兼任
		歴史学B	15	堀智博	兼任
		日本国憲法	15	塚林美弥子	専任
		社会学	15	鈴木将平	兼任
		文化史A	15	塚林美弥子	専任
		文学A	15	吉田和久	専任
		数学Ⅰ	15	松本ディオゴけんじ	専任
		物理学Ⅰ	15	松影香子	専任
		化学Ⅰ	15	石田良仁	専任
		生物学Ⅰ	15	小出哲也	専任
		英語Ⅰ	15	王瓊	兼任
		英語Ⅱ	15	村上武則	兼任
		教養英語A	15	小堀馨子	専任
		教養英語B	15	小堀馨子 他	専任
		中国語Ⅰ	15	董丹犁	兼任
		韓国語Ⅰ	15	高秉旭	兼任
		健康と生活	15	閻淑珍	専任
		健康体育A	15	小山慎一 他	専任
		健康体育B	15	小山慎一 他	専任
		情報Ⅰ	15	斉藤幸喜 他	専任
		情報Ⅱ	15	本石修二 他	兼任
		統計学	15	松本ディオゴけんじ	専任
		基礎ゼミⅠ	30	西條富美代 他	専任
		基礎ゼミⅡ	15	五味雅大 他	専任
		基礎ゼミⅢ	15	渡邊修司 他	専任
		基礎ゼミⅣ	15	佐野徳雄 他	専任
	人体の構造と機能 及び心身の発達	人体の構造と機能Ⅰ	30	大石仁	専任
		人体の構造と機能Ⅰ実習	23	本間信生	専任
		人体の構造と機能Ⅱ	30	大石仁	専任
		人体の構造と機能Ⅱ実習	23	本間信生	専任
		人体の構造と機能Ⅲ	30	大石仁	専任
		人体の構造と機能Ⅲ実習	23	三枝岳志 他	兼任
		基礎医学応用	8	大石仁	専任
		運動生理学	15	新永拓也 他	専任
		機能解剖学	15	菅沼一男 他	専任
		運動学Ⅰ	30	菅沼一男 他	専任
		人間発達学	15	大西正二	専任
		医学概論	15	田中和哉 他	専任
		病理学	8	近藤哲夫 他	兼任
		臨床心理学	8	鈴木幹夫	専任
		内部障害と臨床医学Ⅰ	15	萩原宏毅	専任

専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内部障害と臨床医学Ⅱ	8	萩原宏毅	専任
		骨関節障害と臨床医学Ⅰ	15	岩瀬洋樹	兼任
		骨関節障害と臨床医学Ⅱ	8	入野隆仁	兼任
		神経・筋障害と臨床医学Ⅰ	15	萩原宏毅	専任
		神経・筋障害と臨床医学Ⅱ	8	萩原宏毅	専任
		精神障害と臨床医学	15	鈴木幹夫	専任
		小児の障害と臨床医学	8	小林千尋	兼任
		老年期障害と臨床医学	8	萩原宏毅	専任
		スポーツ障害と臨床医学	8	山田洋二 他	専任
		救急医学実践論	8	平賀篤 他	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	入野隆仁 他	兼任
		多職種連携論	8	五味雅大 他	専任
		保健医療福祉論	8	渡辺長 他	専任
		公衆衛生学	8	遠藤公士 他	兼任
	その他	リハビリテーション工学	8	村田知之	兼任
		リハビリテーション医療英語	8	渡辺長 他	専任
		カウンセリング実践論	15	竹田葉留美	兼任
		QOL・ターミナルケア論	8	渡辺長	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論	15	山田洋二 他	専任
		基礎理学療法学	15	菅沼一男 他	専任
		基礎理学療法学実習	23	相原正博 他	専任
		理学療法研究法	15	渡辺長 他	専任
		医療統計学	8	平賀篤 他	専任
	理学療法管理学	理学療法教育学・管理学	15	平賀篤 他	専任
	理学療法評価学	臨床動作分析	15	田中和哉 他	専任
		理学療法評価学	15	安齋久美子 他	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	23	渡邊修司 他	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	23	佐野徳雄 他	専任
	理学療法治療	運動療法学	15	相原正博 他	専任
		運動療法学実習	23	渡辺長 他	専任
		物理療法学Ⅰ	8	平賀篤 他	専任
		物理療法学実習	23	平賀篤 他	専任
		義肢装具学Ⅰ	15	青柳達也 他	専任
		義肢装具学Ⅱ	8	青柳達也 他	専任
		日常生活活動学Ⅰ	8	西條富美代 他	専任
		日常生活活動学Ⅱ	8	西條富美代	専任
		スポーツ障害の理学療法	8	菅沼一男 他	専任
		運動器障害系理学療法学Ⅰ	8	相原正博 他	専任
		運動器障害系理学療法学Ⅱ	15	相原正博 他	専任
		神経障害系理学療法学Ⅰ	8	平賀篤 他	専任
		神経障害系理学療法学Ⅱ	15	青柳達也 他	専任

専門科目	心理学	内部障害系理学療法学Ⅰ	8	山田洋二 他	専任
		内部障害系理学療法学Ⅱ	15	新永拓也 他	専任
		高齢者理学療法学	8	渡辺長	専任
		小児理学療法学	8	安齋久美子	専任
		疾患別理学療法演習Ⅰ	15	佐野徳雄 他	専任
		疾患別理学療法演習Ⅱ	15	安齋久美子 他	専任
		疾患別理学療法演習Ⅲ	15	田中和哉 他	専任
		プロフェッショナルスキルⅠ	15	渡辺長 他	専任
		プロフェッショナルスキルⅡ	15	渡辺長 他	専任
		プロフェッショナルスキルⅢ	15	相原正博 他	専任
		プロフェッショナルスキルⅣ	15	相原正博 他	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	五味雅大 他	専任
		生活環境学	8	西條富美代 他	専任
		介護予防学	8	渡辺長 他	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	23	山田洋二 他	専任
		臨床実習Ⅱ	45	新永拓也 他	専任
		臨床実習Ⅲ	135	渡辺長 他	専任
		臨床実習Ⅳ	225	相原正博 他	専任
		臨床実習Ⅴ	23	相原正博 他	専任
	その他	徒手理学療法	15	渡邊修司 他	専任
		臨床触診技術	8	渡邊修司 他	専任
		リスク管理実践	8	平賀篤	専任
		福祉用具論	8	西條富美代	専任
		予防理学療法	8	五味雅大	専任
		国際医療活動	8	渡辺長 他	専任
		運動解析学演習	8	田中和哉	専任
		人間情報処理	8	大関健一郎 他	専任
		ロボットと医療福祉	15	梶谷勇 他	兼任
		アニマルセラピー概論	15	門多真弥 他	専任
		動物人間関係工学	15	リングホーファー萌奈美 他	専任
		理学療法と栄養	15	五味雅大 他	専任
		乗馬療法技術概論	15	石井孝弘	兼任
		教育学Ⅰ	15	宇佐美健	専任
		教育学Ⅱ	15	大西圭介	専任
		リハビリテーション特論Ⅰ	15	青柳達也 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅱ(新カリ)	15	青柳達也 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅱ(旧カリ)	15	新永拓也 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅲ	15	渡邊修司 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅳ	15	佐野徳雄 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅴ	15	佐野徳雄 他	専任
		卒業研究	15	渡辺長 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法関連施設における、理学療法士およびその他の専門職種の役割・業務の見学	1年	理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		基礎理学療法学	1年前期
		臨床実習Ⅰ	1年後期
理学療法の各種評価方法の見学と実践	2年・3年	理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年後期
		プロフェッショナルスキルⅠ	1年通年
		プロフェッショナルスキルⅡ	2年通年
		臨床動作分析	3年前期
		臨床実習Ⅱ	2年後期
		臨床実習Ⅲ	3年後期

理学療法の治療の見学と実践	3年・4年	運動療法学実習	2年後期
		物理療法学実習	2年前期
		義肢装具学Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学Ⅰ	2年前期
		運動器障害系理学療法学Ⅱ	3年前期
		内部障害系理学療法学Ⅱ	3年前期
		神経障害系理学療法学Ⅱ	3年前期
		内部障害系理学療法学Ⅱ	3年前期
		小児理学療法学	3年前期
		地域理学療法学	3年後期
		プロフェッショナルスキルⅢ	3年通年
		プロフェッショナルスキルⅣ	4年通年
		臨床実習Ⅲ	3年後期
		臨床実習Ⅳ	4年前期
		臨床実習Ⅴ	4年前期
理学療法の評価・治療・管理業務等の総合的な実践	4年	多職種連携論	2年後期
		理学療法教育・管理学	3年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	沖永 莊八
組織の開催頻度	年2回開催
組織の取り組み	・自己点検、評価の実施
	・学生による授業評価の実施と科目担当者からのフィードバックを実施
	・教育改善の研修会の開催
	・PDCAサイクルによる教育計画及び成果の分析
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 https://www.ntu.ac.jp/tust/upload/R5hyoukasho_yousi.pdf

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務・学生委員会
	委員構成等	教務部長、学生部長、学部長、学科長等
	改善の仕組みの実際	登録されたシラバスは委員及び他教員による第三者チェックを行い加筆修正

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価内容は、次年度の教育研究活動計画の立案に活用しており、該当年度の実行や評価をもとに調整を行うことで学生教育の質を担保できるよう継続的に取り組んでいる。今後も適正な学校運営、効果的な教育活動を実践できるよう、理学療法士養成に関する教育活動の更なる質の向上と改善を図っていく所存である。
--